

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 北海道阿寒高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒085-0213
北海道釧路市阿寒町仲町2丁目6-13-21

E-mail akan-z0@hokkaido-c.ed.jp

Website http://www.akan.hokkaido-c.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 29 名 女子 30 名 合計 59 名
幼児・児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「地域の伝統文化、文化遺産の継承」をテーマとして、活動している。地域の担い手 (後継者) 不足や自然災害などの諸問題をかかえる一方で、国内外から多くの観光客が訪れる地域であるため、自分達の住んでいる地域の特性や価値などを再認識するための学習に力を入れている。そのため、卒業後は地元を離れて生活するも、いずれ故郷に帰って活躍する人材の育成を、ESD の観点に立って長期的なビジョンを持って行っている。

具体的には①地域文化・環境を理解する活動、②地域文化・環境を広める活動、③地域文化・環境を深める活動を行った。

① 地域文化・環境を「理解する」活動

近隣にある 2 つの国立公園をフィールドとし、観察 (地域巡検)・座学 (授業や外部講師による講話)・体験 (全校登山) 等を通して自然を守ること (環境) と利便性 (人々の生活) の共存について学習する。また、シカ肉や外来種であるウチダザリガニなどの地元食材を利用した調理実習等も積極的に行っている。

② 地域文化・環境を「広める」活動

平成28年度より、見学旅行先を台湾に設定し、5月に台湾の高校生が本校に来校、また、10月には本校生徒が台湾の高校を訪問するという国際交流に力を入れている。交流ではお互いの学校の紹介や文化を通して親睦を深める。紹介・説明をする際に本校生徒自身が日本の文化や地域の良さを言葉にしたり、形にしたりする作業を通して、地域文化等を理解し、愛情を持つことをねらいとしている。また、他国の文化や考え方に触れることで普段の生活では培えないような多様な捉え方ができることにもつながる。

③ 地域文化・環境を「深める」活動

例えば、シカ肉の調理をしながら、シカ肉の特徴や良さをまとめて発表する、地域医療などの課題解決について考察を加え発表するなどの活動を通して、地域文化や地域課題を探究する活動を行っている。通常授業で学んだ事をまとめたりつなげたりする力や得た情報を整理・分析する力、また、得たことを実生活の中で活かそうという態度の育成を目標としている。校内の生徒・教員の前で発表することや質疑応答の時間を設けることにより、発表の質の向上も図っている。



①ウチダザリガニの調理実習



①全校生徒による登山



②台湾高校生との国際交流（けん玉の様子）



③探究活動による発表会

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特になし。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

1 間口という他教科との連携をしやすい学校規模を活かした、教科横断的な授業の実施と、他教科TTを行うことによって、生徒や教員同士で教科間のつながりを実感できる教育課程を編成している。また、座学だけでなく、全校登山やフィールドワークを行う地域巡検など、体験や経験から学んだことを実感できる工夫をしている。さらに、今年度の一学年から、総合的な学習の時間において、生徒独自のESDカレンダーを作成することによって、学習のつながりや自分の学びを形にできるよう指導している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

教員組織では関係教科主任からなるユネスコ委員会を組織し、生徒は生徒会役員の生徒にユネスコスクールに関わる各種行事に参加させることにより、長期的に担当する教員・生徒を確保している。また、行事に参加した際には研修した内容を他の教員、生徒に発信できるような機会や体制をとっている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

年に一度、全教員・全校生徒によるアンケートを実施している。今年は年2回も校内のユネスコ活動を外部に発表する機会をいただいた。積極的に活動できた一方で、ユネスコ委員会（教員）やユネスコ関係の行事に参加した生徒とそれ以外の意識の差が大きいことが課題となる。例えば、一学年の宿泊研修時にユネスコスクールの研修時間を設けたり、行事で話す（した）内容を全校生徒の前で発表したりするなど、もう少し積極的な姿勢で共有化を図るべきだと感じている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

生徒会機関誌、学校パンフレットなどに本校で取り組んでいる ESD 関連行事をまとめたり、言葉にしたりする機会を増加した。形にしていくことで、例えば、学校祭の企画で「本校はユネスコスクールだからもう少し地域の人に書き損じはがきの回収を呼びかけてみては」などと企画する際にユネスコを意識した活動が徐々に増えてきた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

連携機関は特になく、本校の課題となっている。連携機関がない理由としては、「過去の実績(経験)がないこと」「連携する機会がないこと」などが挙げられる。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

民間ユネスコ運動70周年記念「第51回北海道ユネスコ大会 in 釧路／2017年度 北海道ブロック・ユネスコ活動研究大会」にて、同席した羅臼高等学校、山花小中学校の生徒・教員と交流をした。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

年1回のアンケートの結果によると、どの教員も教科・科目同士のつながり、行事と授業つながりを意識している回答が多かった。また、生徒の中にも単なる学校行事としてとらえるのではなく、授業で学習したことを積極的に活用している様子がわかる記述がいくつかみられた。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

次年度も地域のフィールドを存分に活かした地域巡検、自然体験活動（登山など）、調理実習を継続して実施する。国際交流ではNPO法人日本時代衣裳文化保存会の協力を得て、着つけ体験や日本料理の食事会を実施する。交流の際には生徒が作成した町内の観光パンフレットを配布する予定である。また、マナー化する避難訓練を改め、減災教育を推進するために社会福祉協議会や地域の防災施設の利用も計画している。